

久留米の自然



久留米の自然121号 2014年5月1日

キンメイモウソウチク（イネ科）

学名

Phyllostachys pubescens cv. *Nabeshimae*

撮影年月日 2013年11月12日

撮影場所 久留米市高良山西斜面

撮影者 猪上 信義

キンメイモウソウチク（イネ科）

猪上 信義

高良山西側中腹の谷沿いに約800㎡のキンメイモウソウチクの群落があり、桿の直径は12～18cm、高さ15～18m位です。

これはモウソウチク桿の黄白色の地に突然変異で緑色の斑が入ったものです。戦前からここに発生していることは知られていましたが（学名は当時県内で活躍した植物採集家の鍋島興市にちなんでいます）、その後全国的に珍しいということで、昭和49年11月に国の天然記念物に指定されました。当初は天然記念物でもあり、当たらず触らずで放置されたため、竹が密生しすぎて、荒廃状態にありました。その後昭和55年頃から、適正な密度管理の元に古い竹を切り、下草を除去するなどの作業が行われ、以前はなかった柵も設けられ、

現在見られるような状態で保護されています。

このキンメイモウソウチクは他にも各地で知られ、このうち宮崎県北川村の山中にあるものも国の天然記念物に指定されています。ほかに大分県野津町、高知県日高村、京都府京田辺市などでも群生地が見つまっているようです。

竹のこのような現象はマダケで最初に見つけられ、キンメイチクと名付けられました。杷木町久喜宮にあるものは、昭和2年に国の天然記念物に指定されています。

これらはともに和風庭園の植材としても利用されています。ただし竹は常に管理していないと暴走して、周囲に繁茂するので、庭に植えようとお考えの人は慎重な判断が必要です。

両生類の産卵時期

河内 俊英

久留米市内でみられる絶滅危惧種および生息地が限られる両生類3種とカスミサンショウウオ、ヒキガエル、ニホンアカガエル、タゴガエルの産卵について紹介します。

1) カスミサンショウウオ

福岡県の絶滅危惧種に指定されているが、その理由は、生息地が丘陵地の森林ということで、生息環境が開発により減少したためである。産卵のみが水の中であり、産卵時期になると水辺で見かけるようになる。12月末から3月が産卵時期であるが、我々が知っている場所での産卵はこれまで、2月と3月にみられた。卵囊には、90~150個の卵が含まれ、独特のラセン状をしていて水中に産み付けられている。トウキョウサンショウウオと外見は似ているが、本種は鈴鹿山脈以西の西日本に分布する種で少し高い(400~800)山地に生息すると言う報告もある。食性は肉食性で昆虫、ワラジムシ、ダンゴムシ、ヤスデなども食べると報告されている。

2) ニホンアカガエル

福岡県の絶滅危惧種に指定されているが、その理由は、カスミサンショウウオとほぼ同じである。生息場所は、主に低地・丘陵地の林縁部の林や茂みのなかであり、陸上性の種である。産卵は、冬から早春(1~3月)と言われているが、久留米では、2月下旬に棚田だった日当たりのよい水たまりに卵囊が見られた。2月23日に8個の卵囊を見つけたが、すでにいくつかは孵化していた。卵囊は、円盤状の透明なゼリー層に包まれ1000~2000卵と大きく、止水に産卵する。幼生(オタマ

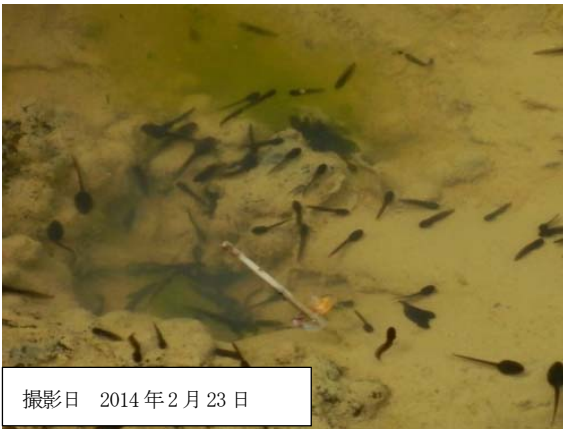
ジャクシ、写真)は、水底の腐植質や珪藻などを食べていて、5~6月には変態して上陸し、近くの林の中で生活し、1~2年で成熟する。産卵場所は2か所見つけた。食性は、肉食性で昆虫やミミズ、地表にいる小動物を捕食する。

3) ニホンヒキガエル

ニホンヒキガエルとアズマヒキガエルの2種の存在が知られ、関西以西(鈴鹿山脈以西)の九州のヒキガエルは前者に入る。低地から山地にいるが農耕地、公園、民家の庭などにも広く生息することから、自分の庭にも棲みついているという方もおられるだろう。夜行性であり産卵期以外は水にいない。流れの無い池沼、水たまり、水田などに長い紐状の卵塊(写真)に包まれた1,500~14,000個の卵を産み卵塊は独特の長い紐状である。高良山の池で毎年3月下旬から産卵が見られるが、わたしは、産卵場所は1か所しか知らない。食性は動物食でミミズや昆虫などを食べている。ガマ合戦、蛙合戦と言われるように、産卵期になると産卵場所に雄雌の多数個体が集まりペアをつくって産卵すると報告されている。

4) タゴガエル

低山や丘陵地にもいるが、主に山地に生息し標高2000メートル地帯にも生息する。産卵は4~5月との報告があり、小溪流の岩の隙間や緩い流の伏流水中にも産卵する。栄養分の少ないきれいな水に産卵するためか、卵は大きく(写真)て餌を食べずに卵黄の栄養だけで成長し変態することからカエルの幼体は小さい。久留米では3月には溪流沿いの石垣などにペアでいて昼間でも鳴き声が聞こえ、3月下旬には産卵が見られ親ガエルも近くで見られた。食性は動物食で、昆虫やクモ、陸生巻貝などを食べるとの報告がある。

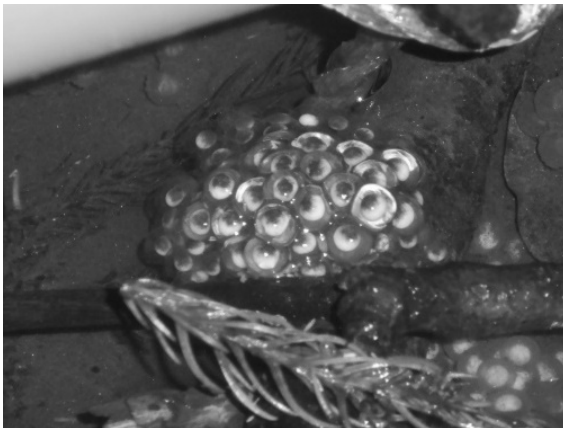


撮影日 2014年2月23日

ニホンアカガエルのオタマジャクシ



ヒキガエルの卵



タゴガエルの卵

(写真はいずれも河内俊英撮影)

高良川流域のキノコ(その23)

角 正博

今回は、ツヤウチワタケ属のキノコです。

41. ウチワタケ(団扇茸)

Microporus flabelliformis (写真1)

高良川流域では、冬季に広葉樹(シイ、カシ等)

樹幹、倒木などに群生しますが、古いものは夏季でも落枝上などに見かけることがあります。子実体は明瞭な柄をそなえ、傘は堅い革質、扇形～腎臓形で長径3cm～6cm程度、周辺はしばしば浅く裂けています。表面は黄褐色、紫褐色、黒褐色等種々の色を帯びた幅狭い環紋が顕著にあります。また全面に短い密毛がありますが、この毛は環紋に沿って脱け落ち、同心状に無毛帯を生じます。下面の管孔面は白色～淡黄白色、孔口は微細です。子実体を割いてみると、肉は白色です。材の白腐れをおこします。

42. ツヤウチワタケ(艶団扇茸) *Microporus vernicipes* (写真2)

高良川流域では、広葉樹の落枝などにまれに見られます。傘は有柄で堅い革質、腎臓形などで長径3cm～5cm程度、表面は黄褐色～栗褐色、無毛平滑で光沢を帯び、不明瞭な環紋があります。下面の管孔面は白色、孔口は微細です。肉も白色です。



ウチワタケ(写真1)



ツヤウチワタケ(写真2)

生き物に魅せられて 59

寄生蜂の寄生蜂の巻 松永紀代子

2013年の6月12日、ムワ〜と蒸し暑さを感じた夜、大きなガが飛んでいた。適当にシャッターをきいたら、ツマキシヤチホコの太い腹が写っていた。しまった、コナラの葉への産卵の邪魔をしてしまったと、残念だった。

翌朝、そのツマキシヤチホコが葉の裏に腹をまわしていた。ああ、ちゃんと一塊の白い卵を産んでくれていた。これは楽しみだ。

ところが、その日の夕方には、ナガコバチの仲間がやってきて、触角でパタパタ卵をたたいては、産卵管を突き立てている。あ〜あ、どんどん卵が寄生されていった。寄生蜂の産卵は、その後も毎日続き、ほとんどの卵が複数回産卵されて、黒い点々の産卵痕だらけになっていた。寄生蜂もしばらくは最初のものと同じだったが、そのうちに、少し小型のスレンダーなものになったりした。いったいどんなものが生まれてくるのだろう。

7月3日、卵に丸く穴が開いているのに気がついた。わあ、わじゃわじゃハチがいる。最初に産卵したナガコバチとは違う後の方で産卵していたコバチに似ていた。

とてもすばやい。駆け回るように始終走っているみたいだ。この小さなハチたちの分類は素人にはできないものではない。脚先が白いし、せわしない。「シロタビハヤアシホソコバチ」と命名することにした。

いすね」と飼育係の説明。親の一人が「ラクダの仲間にしてはこぶが無いからラマとの区別が難しいのでは」と質問した。飼育係は「ラマを実際に見ていないので解りません」と頭を掻いた。ある親がふと思いついたように「消費税が8%に上がる前に、実家に子供を預けて買い物に行かなくちゃ。こぶ無しで楽だから、前から欲しかったアルパカのジュウタンをじっくり選べる」と言った。
*アルパカは野生のビクーニャ、ラマはグアナコから家畜化され、ラマは大型で毛用や肉用に利用されている。共に毎日水を飲む必要がある。

例会報告

第410回例会

高良山キノコ観察会報告 角 正博

去る2013年12月1日(日)に第410回例会高良山キノコ観察とキノコカレー会を行いました。例年どおり、久留米市生産流通課との共催で四季の森ふれあい教室を兼ねていますので、観察ルートも竹の子コースを上る予定でした。しかし、当日は、冷たい雨が降ったり止んだりする生憎の天気となりましたので、後谷(うしろんたに)コース(人道)を高良山林道のヘアピンカーブまで登り、後谷管理道から下るコースへ変更、午前中のみの観察に短縮しました。その後、各自の自家用車で森林つつじ公園まで移動して、スタッフが準備した昼食のキノコカレーを食べて解散しました。今回、下記のキノコリストで明らかのように、ルートの短縮で「きのこ観察ビンゴ」は不調でしたが、景品のキノコグッズは好評だったようです。今後の課題としては、自然を守る会と久留米市との共催事業のため、雨天時の連絡体制の不十分さ、特に直前での中止の判断を誰がどの時点とするのかという事前の確認の曖昧さ、当日の天候の読みと中止の判断が後手に回ったこと等があげられます。夏のきのこ観察は雨天決行が普通ですが、冷たい雨が降る冬はそうはいきません。し

ひととき

動物笑い話

その65

アルパカ

米田 豊

ふれあい動物園では最近アルパカが人気者。子供たちは体をなでながら「かわいいね」「おとなしいね」「乗れないのかな」の声を上げる。「アルパカはラマと同じく南米産のラクダの仲間、家畜です。この長い毛は最高級の織物の材料になります。乗るには小型ですし、片側の前脚と後脚を同時に動かす側対歩なので揺れがひどく、難し

かも夏のきのこ観察会は参加者が少数ですが、冬は日本ボーイスカウト広川第一団などが例年参加され、大人数（今年はスタッフを除いて37名）で行動することが多い観察会です。事故を未然に防ぐためにも、曖昧さを除去することが必要であることを痛感しました。

以下に当日観察できたキノコリストをあげておきます。

以下に当日観察できたキノコリストをあげておきます。なお、食毒については一応の目安として、食・毒不明に分けて記しましたが、私が自分で高良山産のキノコを試食して確認したわけではありません。食毒については、くれぐれも各自で詳しく調べられることをお勧めします。

1. *Resupinatus trichotis* クロゲシジミタケ (黒毛蜆茸) (広葉樹落枝) (不明)
2. *Strobilurus ohshimae* スギエダタケ (杉枝茸) (食)
3. *Naematoloma fasciculare* ニガクリタケ (苦栗茸) (毒)
4. *Cortinarius elatior* アブラシメジ? (油占地) (食)
5. *Clavulina rugosa* カレエダタケモドキ (枯枝茸擬) (路傍土崖) (不明)
6. *Craterellus cornucopioides* クロラッパタケ (黒喇叭茸) (路傍土崖) (食)
7. *Lopharia crassa* カミウロコタケ (紙鱗茸)
8. *Stereopsis burtianum* ハナウロコタケ (花鱗茸) (不明)
9. *Coriolus versicolor* カワラタケ (瓦茸) (広葉樹倒木) (不明)
10. *Lenzites betulina* カイガラタケ (貝殻茸) (不明)
11. *Trichaptum bifforme* ハカワラタケ (歯瓦茸) (不明)
12. *Daedaleopsis purpurea* ミイロアミタケ (三色網茸) (広葉樹倒木) (不明)
13. *Vascellum pratense* ヒメホコリタケ? (姫埃茸) (不明)

14. *Auricularia auricular* キクラゲ (木耳) (広葉樹倒木) (食)

参加者の感想文

森 なお

おもしろいきのこがいっぱいあっておもしろかった。大きいみみずを5ひきみました。

扇 伸幸

雨が降って、少し大変でしたが、楽しかったです。

上川 床聡美

雨だったのが残念でしたが、楽しかったです。

渡部 一平

子供も喜び、大変良かったです。また、参加したいいです。

すとうゆう

たのしかった。

須藤 希世子

初めて参加させていただきました。天気には恵まれず残念でしたが、色々なキノコを見つけたり、紅葉をみたり、子供達の楽しそうな声を聞きながらの散策は楽しかったです。ありがとうございました。

宮本 卓

自然とふれあうことができる、いい機会になりました。

立石 京佑

もっといろいろなきのこをみつけてたべたいなと思いました。

立石 都

初めての参加でしたが、自然とふれあえた感じで、子供と一緒に楽しめました。いろんな種類のきのこたちがあって勉強になりました。ありがとうございました。カレーごちそうさまでした。いつも食べないきのこをぜんぶ食べていて親としてはうれしかったです。

森 健史

色々なきのこが見れて楽しかったです。自然の中でマイナスイオンが気持ちよかったです。

森 あやか

全部たのしかったです。

森 昌宏

小雨降る中だったが、色々なきのこに出会って楽しかった。又子供の参加者も多く将来が楽しみだ。又子供達のきのこをみつけるのが上手なのにはおどろいた。

講演報告

環境講演「文化人類学的な目で楽しむ南米旅行」

宮崎 和子

去る1月19日行われた、医師、前天神会新古賀病院理事長の古賀暉人さんによる環境講演「文化人類学的な目で楽しむ南米旅行」は、医師の目で見えた紫外線による人や犬の皮膚の変化に関するお話でした。

赤道に近く紫外線の強いオーストラリア北部に住む白人は、メラニン色素が少ない為に、強い紫外線に弱く皮膚ガンを起こしやすい。逆に紫外線の少ない高緯度地域ではビタミンDの合成が出来ずカルシウム代謝障害から、くる病や骨粗しょう症を起こし易い。北欧の人は太陽を恋しがりよく日光浴をしている。旅で出会ったチベット人の皮膚は褐色であった。チベット人はインド人とは違うモンゴロイドであるが、肌の色がアンデスの人達と同じく褐色であるのは、紫外線の多い高地に適応した結果である。南米リマで無毛の皮膚が黒いペルー犬に出会った。毛が無いため紫外線被曝も多く皮膚の色の白から黒への変化は生存に優位だったと考えられる。また体温が40度と高く寒い夜は湯たんぽ犬として重宝されている。ヤムドック湖畔で出会った長毛のチベット犬の皮膚は白い、ジンギスカンが欧州侵略に伴った超大型犬である。億を越える超高値を中国人富豪に付けられる犬もいる。

古賀先生の旅の写真を交えてのお話は興味深く、黒いヌードのペルー犬や偽ライオンと騒がれたチベタン・マスチフと出会った様な親しみを覚えました。

数年前、私は大分のアフリカンサファリでキリンに出会ってしまい、その優しい何か言いたげなつぶらな瞳で静かにじっと見つめられ、俘になってしまいました。「キリンさんあなたはどのようにしてキリンなの？」本当に自然は不思議ですね。今ま

た「波紋と螺旋とフィボナッチ」と言う本に出会ってしまいました。

参加者の感想文

土方 久

大変興味深く拝聴しました。古賀先生の多様な角度から分析してのお話。私も南米を深く楽しませて頂いた想いです。誠に有難うございました。

宮崎 和子

とてもおもしろかったです。興味あること、ありがとうございました。

福重 登紀子

初めての参加でしたがとても有意義で為になる講習でした。地球全体の事、旅行の為全て勉強になりました。又、次回も参加させていただきます。

石橋 和代

大きなテーマが感じられた。色んな意味で、考えが大きく考えられるようです。

川村 孝子

貴重な旅行の写真やお話ありがとうございました。NHKの世界旅行とはまた違った見方で楽しかったです。



講演会の様子

総会報告

日時 平成26年1月19日(日) 午後1時30分

場所 くるめウス会議室

第1号議案平成25年度活動報告、補助金の件

1、例会開催

月日	NO	内容	内容・その他	参加者数
1月20日	403	平成25年度総会 総会記念講演会 講師 津田堅之介	場所くるめウス テーマ「中国・ネパール・奥アマゾン野生生物を追い続けて」	総会 13名 講演会 23名
3月31日	404	筑後川春の野草を愉しむ会	場所くるめウス 共催 筑後川まるごと博物館運営委員会	46名
5月26日	405	高良山樹木の名札付けと豚汁会	場所 高良山北面コース遊歩道 共催 久留米市生産流通課	21名
6月30日	406	キノコの自然観察会とキノコカレー会 講師 金子周平	場所 高良台演習場周辺	16名
7月21日	407	水辺の自然観察会と魚ッチング教室	場所 くるめウス前高良川下流 共催 ヒナモロコ郷づくりの会	20名
9月14日	408	筑後川観月会 観察講師 吉田哲磨	場所 くるめウス 共催 筑後川まるごと博物館運営委員会	28名
10月20日	409	ネイチャーゲームと自然観察会	共催 久留米ネイチャーゲームの会 久留米市生産流通課	35名
12月1日	410	高良山キノコ観察会とキノコカレー会	場所 四季の森共催久留米市生産流通課	39名

2、会報「久留米の自然」発行

	発行年月日	表紙写真	ページ数
117	2013年1月1日	シジュウカラ(松富士将和)	8ページ
118	2013年5月1日	アライグマ(津田堅之介)	12ページ
119	2013年9月1日	ウチワヤンマ(大木武彦)	10ページ

3、総会、会議等 ※幹事会兼事務局会議は毎月第1水曜日に開催(午後7時30分より)

月日	会議名	場所
1月 9日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米 2F
1月 20日	平成25年総会	筑後川防災施設くるめウス
3月 6日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米 2F
5月 1日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米 2F
7月 3日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米 2F
9月 4日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米 2F
11月 6日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米 2F

4、懇親事業

1月20日(日) 新年会 インドカレー「ビスヌ」

5、他団体への協力

月日	内容	場所(主催者)
7月21日	河川愛護月間展示と発表 古賀	筑後川防災施設くるめウス(筑後川河川事務所・福岡県・久留米市)
11月23日	緑のハイキング講師 橋田・角・大木・中野・梅野	高良山:兜山(緑の市民会議)

6、補助金

福岡都市圏広域行政事業組合から 平成25年7月30日に 環境対策支援補助金 23万円 を頂きましたことを報告します。

(会計年度 2013年4月~2014年3月となっています。報告は4月)

7、第Ⅱ期「身近な植物」ボランティア養成講座6カ月：

4月~9月まで月1回土曜日に実施

受付 9:30 10:00~12:00

集合 高良山大社前境内

講師 橋田沙弓

実施日 25年4月~9月コースは高良山の樹木を中心に行う。募集は西日本新聞の情報ガイドで行う。

1回目 4月27日 テーマ 北回り遊歩道コース
資料作成 5名

2回目 5月26日 テーマ 北回り遊歩道コース
資料作成 9名

3回目 6月22日 テーマ 北回り遊歩道コース
資料作成 5名

4回目 7月27日 テーマ 南回り遊歩道コース
資料作成 4名

5回目 8月31日 テーマ 南回り遊歩道コース
台風のため中止

6回目 9月28日 テーマ 野草料理 資料作成
6名

8、第Ⅲ期「身近な植物」ボランティア養成講座6カ月：

25年10月~26年3月、月1回土曜日

1回目 10月26日 テーマ イネ科と標本作成講座
資料作成 2名

2回目 11月30日 テーマ イネ科、アブラナ科、
キク科、セリ科他資料作成 2名

3回目 12月21日 テーマ 食べられる薬草講座
20種 資料作成 4名

4回目 1月25日 テーマ 柳坂ハゼ並木周辺の野草と
標本作成講座 資料作成

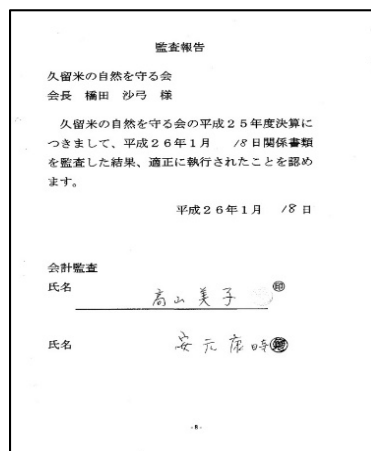
5回目 2月22日 テーマ ナデシコ科、セリ科、
キク科他と標本作成講座 資料作成

6回目 3月15日 テーマ 野草茶(オオバコ茶、ス
ギナ茶、ヨモギ茶、ビワ茶クコ茶、クワ茶他試飲)

第2号議案 平成25年度収支決算承認の件

収入の部				
	本年度予算額	本年度決算額	比較増減額	備考
会費	140,000	146,000	△ 6,000	2000円×59人 4000円×4人 8000円×2人
例会行事費	40,000	11,650	28,350	
読本代	15,000	6,000	9,000	ひとつの川から 見えるもの3冊
カンパ・利子	50,000	58,741	△ 8,741	
補助金	0	230,000	△ 230,000	福岡都市圏環境 対策補助金
収入の部合計	245,000	452,391	△ 207,391	
支出の部				
会報作成費	140,000	125,990	14,010	117号、118号、 119号
講師謝礼	30,000	25,000	5,000	
通信費	25,000	31,745	△ 6,745	
印刷コピー費	5,000	26,885	△ 21,885	
文具費	30,000	47,447	△ 17,447	
事務局費	35,000	13,149	21,851	
行事費	85,000	87,865	△ 2,865	
使用料及び賃料	20,000	3,600	16,400	みんくろロッカー
備品購入	80,000	0	80,000	
予備費	9,386	5,147	4,239	
支出の部合計	459,386	366,828	92,558	
収入の部合計-支出の部合計	△ 214,386	85,563		
前年度繰越金	214,386	214,386		
次期繰越金	0	299,949		

監査報告



第3号議案平成26年度事業計画案承認の件

1、例会開催

月日	回	内容	共催・その他
1月19日	411	総会・記念講演会 講師 古賀輝人テーマ「文化人類学な目で楽しむ南米旅行」	場所 筑後川防災施設くるめウス
3月30日	412	筑後川春の野草を愉しむ会	共催 筑後川まるごと博物館運営委員会 場所くるめウス裏テラス
5月25日	413	高良山樹木の名札付けと豚汁会	場所高良山北回り遊歩道コース
7月27日	414	キノコの自然観察会とキノコカレーの会 講師 金子周平	場所高良山演習場周辺
9月6日	415	筑後川観月会 講師 吉田哲磨	共催筑後川まるごと博物館運営委員会 場所くるめウス
10月19日	416	ネイチャーゲームと自然観察会	共催くるめネイチャーゲームの会 久留米市生産流通課
12月13日	417	草野の歴史と史跡と自然探訪 樋口一成	

2、会報「久留米の自然」発行

号数	発行年月日	表紙写真	ページ数
120	2014年1月1日	皮膚と紫外線と犬	10ページ
121	2014年5月1日		
122	2014年9月1日		

3、総会、会議等 ※幹事会兼事務局会議は毎月第1水曜日に開催(午後7時30分より)

4、他団体への協力

7月20日 河川愛護月間展示と発表 筑後川防災施設くるめウス

11月23日 緑のハイキング講師 高良山・兜山 緑の市民会議

第4号議案 平成26年度収支予算案承認の件

収入の部			
	平成25年度決算額	平成26年度予算額	比較増減額
会費	146,000	150,000	△ 4,000
例会行事費	11,650	15,000	△ 3,350
読本代	6,000	10,000	△ 4,000
カンパ・利子	58,741	50,000	8,741
補助金	230,000	230,000	0
収入の部合計	452,391	455,000	△ 2,609
支出の部			
会報作成費	125,990	140,000	△ 14,010
講師謝礼	25,000	25,000	0
通信費	31,745	30,000	1,745
印刷コピー費	26,885	30,000	△ 3,115
文具費	47,447	40,000	7,447
事務局費	13,149	15,000	△ 1,851
行事費	87,865	85,000	2,865
使用料及び賃料	3,600	10,000	△ 6,400
備品購入	0	70,000	△ 70,000
予備費	5,147	10,000	△ 4,853
支出の部合計	366,828	455,000	△ 88,172
収入の部合計-支出の部合計	85,563	0	
前年度繰越金	214,386	299,949	
次期繰越金	299,949	299,949	

第5号議案役員選任の件

会長：橋田沙弓 副会長：河内俊英、国分謙一 幹事：丸山由紀子、角 正博、石橋一也 事務局：古賀信夫、大木武彦、中野昭剛 会計：梅野 忠 会報編集：橋田沙弓、古賀信夫、大木武彦、丸山由紀子、会計監査：高山美子、安元康時 顧問：荒巻健二、松富士将和

《行事案内》

◇ 第413回例会：

高良山樹木の名札付けと豚汁会

高良山の二次照葉樹林が残っている北まわり遊歩道の半分を行います。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕：5月25日（日）雨天中止

〔集合解散場所〕：高良大社下駐車場

〔集合解散時間〕：10：00 14：00

〔持参するもの〕：筆記用具、帽子、長袖長ズボン、

おわん、茶わん、おはし、水筒、運動靴

※昼食は豚汁を提供します。無料

共催 久留米市生産流通課

◇ 第414回例会：

高良台キノコの自然観察とキノコカレーの会

高良台の演習場周辺でキノコの観察会を行います。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕：7月27日（日）雨天決行

〔集合解散場所〕：上津小学校

〔集合解散時間〕：10：00 14：00

〔参加費〕：200円 昼食にキノコカレーを提供

〔持参するもの〕：筆記用具、帽子、長袖長ズボン、

お皿、スプーン、水筒、運動靴

◇ 第415回例会：

筑後川観月会

筑後川防災施設くるめウスで観月会を行います。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕9月6日（土）19：00～21：00

〔会 場〕筑後川防災施設くるめウス

〔参加費〕：300円 雨天中止

共催 筑後川まるごと博物館運営委員会

◇ 第IV期「身近な植物ボランティア養成講座」

実施日 平成26年4月26日、5月25日、6月28日、7月26日、8月30日、9月27日

集合場所 高良大社階段下広場

集合解散時間 10：00 12：00 雨天中止

事前に申し込みをお願いします。

《事務局だより》

黒木町の四季菜館（しきさいかん）に行って山菜取りをしてその後地元の旬の食材を使った料理をいただきました。今年は、本会の春の野草を楽しむ会が雨で中止になったので、山菜料理はことし初めてです。黒木の里山も山菜の宝庫です。わらび、ぜんまいその他。それと、山に取り囲まれた棚田の風景。特に雨上がりでしたので緑がとてもあざやかでした。高良山もそうですがどこの里山でもそこに身をおくとなんだかほっとします。またおじゃまします。よろしくをお願いします。

古賀 信夫

HP もご覧下さい。http://kurumenoshizen.net/

1. 会員異動

入会 福重登紀子、石橋和代、船津真由美（久留米市）

2. 会費納入について

会費は、会の活動を支える源です。まだ、会費を納入していない人は振替用紙（口座番号01750-1-40114）に年会費2000円をご確認のうえ納入をお願いします。

3. 原稿募集

次号122号は平成26年9月1日発行予定です。原稿の〆切は8月1日です。皆さんの原稿をお待ちします。

4. 幹事会兼事務局会議のご案内

幹事会（定例）は原則として隔月第1水曜日の19：30～21：30まで、えーるピア2Fで行います。皆さんも気軽にご参加下さい。（5月7日、7月2日、9月3日）

久留米の自然

平成26年5月1日第121号

発行 久留米の自然を守る会

E-mail hashida@kurumenoshizen.net

発行者 橋田沙弓

事務局 〒839-0827

久留米市山本町豊田2320-6

TEL 51-7064 FAX 51-7065（古賀）

印刷 千年屋印刷

TEL 43-2400 FAX 43-2408